



輝け未来へ!
教科教室型

新鶴川中学校が完成



新校舎全景

教科教室型校舎という都内では2番目、全国的にも少ない特色をもった学校として鶴川中学校の新校舎がこの程完成し、市長をはじめ関係者や生徒の出陣のもと1月30日に落成式が行われました。鶴川中学校は昭和22年5月に南多摩郡鶴川村立鶴川中学校として大蔵町に開校しました。旧校舎は昭和42年11月以降に順次建設されましたが、阪神淡路大震災をきっかけとした耐震診断の結果と施設の老朽化状況を総合的に判断した結果、全面的な移転新築を決定しました。これを平成12年3月から移転建設工事が進められ、小野路町に完成しました。

多様な学習形態に対応

これまでの校舎の形態は、普通教室中心で、一部の教科だけ生徒が教室を移動する「教える」ことを重視した施設でした。これに対し新校舎は、生徒がすべての教科の教室へ移動することにより主体的に課題に取り組み解決していく、いわば「学ぶ」とを前面に押し出した、教科教室方式です。

具体的には、生徒の個別学習やグループ研究などに柔軟に対応するため、各教科毎に「メディアセンター」を配置。また、パソコンの校内LANと図書館システムを整備しました。子どもたちは、各メディアセンターに設置されているパソコン、教科に関連する図書各種情報、資料等を様々な学習に活用することが出来ます。

施設面では、エレベーターや段差の解消、手すり、点字ブロック等ハンディのある人にも安心して利用いただける様々な設備（バリアフリー）を設けてあります。また、緑化やソーラシステム、雨水利用、環境負荷の少ない材料、深夜電力蓄熱式床暖房等、環境へ十分配慮した施設整備（エコスクール）となっています。さらに、体育館1棟には制震構造を取り入れ、地震時の安全性、修復性を確保しています。

今後、準備が整い次第、校庭や体育館、温水プール、ホール、学校図書館、一部教室等学校施設をこの学び舎で過ごすことにより、学びの楽しさと喜びを、そして多くの友と交わる事の大切さを感じ取り、身に付け、自信を磨いていくことを期待しています」と祝辞を述べました。

また、新田校長から「この豊かな施設を活用し、自ら学び、行動する能力を培い、大いに鍛えてください。立派な国際人となるよう、基礎基本をしっかり身につける決意を固め、感謝の気持ちを込めた新たな一歩を踏み出しましょう」と挨拶がありました。

この後、生徒会長の佐藤織ささんは新校舎は、教科教室型で様々な工夫がされている素晴らしい校舎です。これから私たちは、この新しい校舎を十分生かし、新しい鶴川中学校の伝統を築いていこうと思います」とお礼を述べました。

4月からは学校関係が大きく変わると思っています。これから子どもたちの主体的な課題解決の学習や体験活動がますます重視されます。それにもない授業や学習の形態が今まで以上に多様化します。こうしたなかで新しい学習形態である「教科教室型」が今後どのように機能するのが、そして、どのような成果が期待できるのか、が問われています。

この新校舎を生かした新しい教育の創造が、生徒、学校関係者のみならず市民の皆様の大きな期待と関心を集めています。教育委員会としても積極的に学校を支えていきたいと考えています。

この新校舎を生かした新しい教育の創造が、生徒、学校関係者のみならず市民の皆様の大きな期待と関心を集めています。教育委員会としても積極的に学校を支えていきたいと考えています。

この新校舎を生かした新しい教育の創造が、生徒、学校関係者のみならず市民の皆様の大きな期待と関心を集めています。教育委員会としても積極的に学校を支えていきたいと考えています。



200人収容のホール



右側が制震装置

学校図書館



パソコン室



屋根開閉式室内温水プール



新学期4月8日から
所在地:町田市小野路町1905番地1
電話:042 735 2405